

十年は前、「懇請り唄（うた）」と重合った。杜氏（さとうじ）たちが作業をしながら歌う事に「日本の歌の原点」を見いたした。

稽古の時は作業の時間や工程を確認するためには、ある時は、作業のつらさや疲労をしのぐために、歌詞に歌の歌詞を歌う。南浦は「『朝云歌』歌い方も、言葉もそれそれの個性のまま歌われ、歌い手の人生が歌う。そこには『日本の音楽文化の基』本が詰まっている」。

東京元氣甲子人

日本音楽研究者
茂手木 潔子さん



和の文化音でたどる

同大音楽院のゼミで民

た。

旅館宿泊者の小庭文夫

氏、国立劇場芭東座に勤

務時代は演出家の木戸

敏郎氏と、多いの時に学

んだ。第一線の研究者、

作曲家と出会う、雅夫

や中澤喜一、文豪などの

「日本音楽研究」となっ

つかを聞き、三味線の音

を下げたり上げたりし

て、どの箇所を使へかも決

いて育つた。「」の研究

をしているのは春日井村

千鶴子さん。春日井村で育ったからと云いま

す「自然の音に囲まれた故郷の『懇請』が研

究の原点」である。

よう)や酒造り里も「音色

は違っていいし、出せる声で歌えはいい、それが

声で歌えはいい」と、それが

「」になる。稽古の間に歌われる「日本音楽の自由さ」を教育の場に生かしたいとも願う。

著書「おもちゃが贈る日本の音」「音楽の友社」ではどうぞ、お読みください。お読みになれば、「日本音楽文化の基礎」としてお読みください。

生徒は「春日井村」セミの声「コオロギの声、

川の音など自然の音を聞いて育つた。」の研究

をしているのは春日井村

千鶴子さん。春日井村で育ったからと云いま

す「自然の音に囲まれた故郷の『懇請』が研

究の原点」である。

東京芸大樂科二年

の時、無理はやしない自

分音楽の研究に入った。

（武井 功）